阿弥陀さんいらっしゃ〜い！

お仏壇の処分を決意されたKさんの物語と、この時代におけるお仏壇の意味を考えてみました

住職

風が気持ちの良い5月初旬、kさんご夫婦のお宅を訪ねました。お引越しをされて3年ほど。すっきりとした和室には年代物のお仏壇があり、私はそのお仏壇のお話を聞くためにお邪魔したのです。

「家を探している時は、このお仏壇を置く和室があるかどうかが基準になっていたんですよ。」そうおっしゃるkさん。それほどお仏壇を大切に思い、その時は受け継いだお仏壇を美しく修繕して末長く手を合わせていく気持ちでした。ところが今は普段からお仏壇の扉が閉められたまま。どうしたことでしょうか。

「今度の法事を最後にお仏壇を無くそうと思っているんです。」そう決意するにいたるまで、kさんにどんな心境の変化があったのでしょうか。

K家のお仏壇

私は、kさんのご実家にこのお仏壇があった時分からお参りしておりました。kさんのお父さんはシャキッと背筋の伸びた印象の方で、足をねんざした時も人前では痛そうな素振りを見せない、そんな性格の方でした。お母さんは大らかな方で、あまり細かなことは気にされず、私も安心して接することができた記憶があります。

kさんのお父さんのお父さん、つまりおじいさんが亡くなった時にお迎えしたのがこのお仏壇で、kさんが5才〜7才くらいの時だったそうです。

幼いkさんにとってお仏壇は、なんとなく暗く「怖い存在」でした。ただ、飼っていた猫がそのお仏壇の下の空洞になった部分に入りこみ、そこで子育てをしていたことは、微笑ましい思い出なのだそうです。

お参りにいった先で単車がパンク。GW中はバイク屋さんどこもお休みで、2時間押して帰宅しました。

住職・釋真宣（宇治田真宣）

kさんがお仏壇に思いを寄せるようになったのは、ご両親が亡くなってからの。親を亡くすという経験が、お仏壇を怖い存在から大切な存在へと変えたのです。ご両親亡き後の方がお仏壇がきれいに清掃されるようになったというお話も、ご両親を思う気持ちが伝わりますね。ではなぜ今になってお仏壇を無くす決意をされたのでしょうか。

大切だからこそ

「今になって突然、というわけではないんです。法事の際に住職に『死んだらすぐ成仏』とお話しを聞きました。父母はお仏壇の中に入るのではなく、阿弥陀さまのはたらきでお浄土に生まれると。幾度かそのようなお話を聞くうちに、亡き人と会うのは心の問題で、お仏壇というモノにこだわる必要はないんじゃないか、と思い始めたんです。

もう一つは、私たちには子どもがいませんので、残しておくわけにはいきません。私が死んだら誰かがお仏壇を処分することになります。それが嫌なんです。他のモノならかまいませんが、大切なお仏壇だけは私が自分で区切りをつけたいという気持ちがあるんです。」

急に思い立った訳ではなく、むしろ長い時間をかけて心の整理をされたのですね。お仏壇から過去帳や両親の写真を取り出してゆくのも少しづつ。思い立ってから今にいたるまで約6年が必要だったそうです。

今は過去帳やご両親の写真、それに亡くなったネコちゃんの写真がお仏壇ではなく棚に並んでいて、そこで手を合わせていらっしゃいます。

私にとっても今度のご法事が、この仏前でお勤めをする最後の機会になります。真心こめてお勤めさせていただきます。

阿弥陀さまとお仏壇

お仏壇は、阿弥陀さまのお姿を前にして、「なもあみだぶつ」とお念仏をする場所です。そう、声にだして「なもあみだぶつ」。

「我が名を称えよ。我にまかせよ。必ず救う」とお約束してくださった仏さまが阿弥陀さまです。そのおおせの通りにお名前を呼ぶことがお念仏です。

「必ず救う」とは、お浄土（極楽浄土）へ生まれさせる、ということです。このお約束は本願と呼ばれていて、お浄土に生まれさせて先だった人に必ず会わせるという阿弥陀さま絶対のお約束なんです。

私たちが「なもあみだぶつ」とお念仏を申して浄土に生まれることは、先だった人に必ず会う私がいま生きているということです。「おかえり」と迎え入れてもらえる場所が私には用意されてある生き方です。その命を想ってまた「なもあみだぶつ」。

命の仏さま

阿弥陀さまは「無量寿如来」とも言って限りない（無量）命（寿）の仏さまです。私たちが普段「命」と呼んでいるものは目に見えませんが、たしかに有りますよね。考えてみれば、目に見えず触ることもできないモノが、確かに「有る」と感じることは不思議です。この世にいない人を感じることもまたしかりです。

色も形もましませず しかれば 心もおよばれず 言葉も絶えたり この一如より形をあらわして方便法身と申す

親鸞聖人

色も形もなく、想像することも言葉であらわすこともできないけれど、絶対に有るモノ。それが形となってくださったお姿が、お仏壇の中の阿弥陀さまの絵姿です。

声となってくださった場合はお念仏（なもあみだぶつ）です。

お仏壇なき時代に

お仏壇の有無に関係なく阿弥陀さまはご一緒してくださっています。声になって「なもあみだぶつ」ほら、聞こえてくださったでしょう。「必ず救う」ありがたいことです。

それでも方便法身としてお姿を拝みたい気持ちの方は、手のひらサイズのお仏壇やカードサイズの阿弥陀さまも本願寺から交付されていますよ。ご興味あれば善称寺にお問合せくださいね。

冥加金 10,000円
荷造送料 1,000円
タテ 90mm× ヨコ 55mm
× 厚み 2mm
漆ブラック調バイオプラスチック

善称寺瓦版 ことごと

4月8・9・10日 善称寺の花まつり2022

4月8日はお釈迦さまの誕生日「花まつり」。善称寺でも花まつりを行いました。かわいらしい誕生仏（赤ちゃんのお釈迦さま）を背中にのせた白い象を安置し、ご参拝の皆さまに甘茶をかけていただきました。「甘茶かけました〜」とお声をかけてくださった方には、花まつりデザインのお煎餅をプレゼント。そして、寺務員ハタノさん作の「顔はめパネル」が今年初めてお目見え。子供から大人まで、たくさんの方がお釈迦さまになりきってくださいました。

4月15日 清水ひろたか×ミナクマリ演奏会

オノ・ヨーコ氏や坂本龍一氏ら、国内外のアーティストの活動に参加キャリアを持つギタリストの清水ひろたかさんと、インドの古典楽器シタールを携えて歌うミナクマリさんをお迎えして、本堂で演奏会を開きました。ミナクマリさんは、どこか遠くへ向かって歌っているようなヴォーカルと異国情緒あふれるシタールの音色、歌詞もヒンディー語と日本語が合わさった独特な世界です。清水ひろたかさんは、ギターを抱き抱えるようにして、一つ一つの音を大切に奏でるような演奏と、合間合間にポツリポツリと話される曲にまつわるエピソードも魅力的でした。これからも、皆さまとお寺とがゆるやかに繋がるさまざまな催しを企画していきます。善称寺LINEアカウントより知らせしますので、ぜひご登録ください！

善称寺LINE アカウント

令和4年 春のことごと

チャリティ活動のご報告

お寺へのお供物を仏さまからのお下がりとしてひとり親家庭などにお届けする「おてらおやつクラブ」の活動は、月に数回のペースでNPO法人や個人宛にお送りすることができています。活動へのお力添えに感謝申し上げます。

また、善称寺オリジナルTシャツと手ぬぐいについて、これまでの売り上げ9万9千円のすべてを「おてらおやつクラブ」に寄付させていただきました。お買い上げくださった皆さま、どうもありがとうございました。Tシャツと手ぬぐいは引き続き販売していますので、ご興味のある方はお気軽にお声かけください。

おてらおやつクラブについてお知りになりたい方、支援を必要とされている方はこちらにアクセスしてください。

日々のあわ

この春、「推し」ができました。その人について知っているのは、名前と、「おいしい苺を作っている」ということだけ。でも家族皆が心を奪われてしまったのです。

苺を買う時は、県産の〈まりひめ〉を狙います。香りがよく甘くてとてもおいしいから。贈答用としても人気で、ものによってはお高いので、味がよくてお値打ちなものに出会えると「当たり！」と嬉しくなります。ある時、近所のスーパーで買ったまりひめが「当たり」だったので、売り場に出ていれば同じものを選ぶようにしていたところ、値札シールにいつも同じ名前があることに気づきました。それが〈推し苺農家・福田イトエさん〉との出会い。それまでは「おいしい苺うれしいな〜」くらいのものだったのですが、作られている方の名前を知ってからは「福田さんの苺最高です！ありがとうございます！」という気持ちがこみ上げてくるように。今では苺を食卓に出すたび「これ福田さんの？」と家族に聞かれるようになりました。

「多くの命と皆様のおかげにより このご馳走を恵まれました。深く御恩を喜びありがたくいただきます。」——食前の言葉を改めて味わう日々です。苺の季節もそろそろ終わり。また来シーズンも、福田さんの苺を食べられますように。

愛用の雨傘を失くしてしまい、代わりを探していますがなかなか気に入るものに出会えません。梅雨入りの前には見つけたいです。

坊守

てらおとこ寺男だより

寺男の独り言です…
立夏 蛙始鳴

世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし
在原業平 伊勢物語

返歌 散ればこそいとど桜はめでたけれ憂き世になにか久しかるべき
詠み人知らず 伊勢物語

桜の季節はとっくに過ぎましたが、4月初めに紀の川市西脇の民家の庭先にある見事な枝垂れ桜を見にゆきましたが花は終わってました。残念！因みに寺男は桜より梅の方が好きです。

三分咲きの紫陽花と満開のホタルブクロ

寺男のお願い

花筒の生け方について

花筒には、あまり沢山のお花を生けないように…沢山生けると花筒に充分な水が入らないのでお花が直ぐに枯れてしまいます。それにあまりキツく生けるとお花が傷みます

お花が余る時は、水を張った桶に入れて水場に置いておいて下さい。お寺で使わせて頂きます。また、花筒や桶の残り水を通路に捨てないで下さい… 通路がぬかるみます！線香、マッチも通路に捨てないで下さい…お墓を綺麗にしましょう

寺男の数少ない友達のアマガエル君が今年はまだ、見当たりません!! 何処かに行ってしまったか!? 来年は会えるかな…？

寺男・マトバ

昨年のアマガエル